

「武道推進モデル校」事業を活用した 複数種目（柔道・銃剣道）の実践

滋賀県高島市立朽木中学校
教諭 徳田 亮

本校がある滋賀県高島市朽木地区は、県北西部に位置し、東部を比良山地、西部を丹波山地に囲まれた峡谷型の山村です。本校では、従来、保健体育の授業で柔道に取り組んできましたが、令和元年度、スポーツ庁の委託を受け、「武道等指導充実・資質向上支援事業」の「武道推進モデル校」となり、新たに銃剣道にも取り組みました。

本校が実践した柔道と銃剣道の授業の取組を紹介します。



冬の朽木中学校の校舎。あたりは一面雪景色となる

1 はじめに

本校は全校生徒が31名の、小規模の学校である。素直で穏やかな生徒が多く、何に対しても一生命に取り組むことができる。本校の教育目標は「杉の木とともに大地に根を張り 幹を太らせたくましく伸びる」であり、朽木の自然を大切にし、地域の人と協力し、生徒が成長することを目指している。特に大切だと考えていることは、自ら考え、主体的に学び、目標をもって行動できる生徒の育成であり、様々な教育活動でそのことに取り組んでいる。

本校の所在地である朽木地域では、地域の方が柔道教室を実施しており、柔道に関して関心の強い生徒もいる。本校には数年前まで柔道部があったのだが、全校生徒数の減少に伴い廃部となった。現在は、他種目の部活動をしながら柔道教室に通う生徒もあり、柔道が地域のスポーツとして定着しているようである。

3 柔道・銃剣道の実践内容と授業での留意点

●実践研究のねらい

柔道については、外部指導者の協力を得ることで、柔道をより専門的に理解させたい。また、外部指導者のきめ細やかな指導によって、生徒の武道に対する関心や意欲を向上させ、それを技能の向上へとつなげたい。

銃剣道については、武道の一つであることを理解させながら、基

ことから始まる。技能に関しては、まず受け身を取れることを目標として行い、全員がしっかりと行えるように指導している。小規模であるため、苦手な生徒に対しても個別に時間をかけてきめ細かく指導することができると、受け身ができるようになると、簡単な崩し遊びや比較的实施しやすい技を一斉指導している。

2年生では、受け身の復習を行

3年生では実施していない。

本動作や礼法などを学ぶ。さらに、外部指導者の指導と実体験を通して、新たな技能や知識を習得させ、興味・関心をもたせたい。

（※表「複数種目指導モデル」参照）

2 いれまでの武道の取り組みについて

本校の武道の選択においては、保健体育科の教員1名が体育の授業で柔道の指導を行っている。2018、2019年度には柔道の

有段者である教頭がサポートしていた。授業の内容に関しては、1年生では柔道の歴史や基本用語等の基礎的なことを知識として学ぶ

●実践内容

▼柔道

(1) 1・2時間目

・柔道の歴史や礼法について



柔道② 膝立ちから相手を倒す



柔道① 後ろ受け身



柔道④ マットを使用して投げ技を練習



柔道③ 固め技の指導

▼柔道

- 生徒の感想について
- ・投げ技の際に、相手の袖を放しそうになったので、次回から気をつけた。
- ・柔道は技だけではなくて、座り方、立ち方、正座の仕方、靴の並べ方などたくさんルールがあることを学びました。
- ・最初はちよつと怖かったけど、だんだん投げられるようになったのが良かったです。

▼銃剣道

- ・初めて銃剣道をして、とても迫力があってすごいと思いました。実際の試合も見たいです。

●生徒の変容の様子について

生徒は保健体育の授業において、外部指導者の指導を受けたことがなく、不安な気持ちを少し抱えていたように思えたが、いざ授業が始まると不安はなくなったように思えた。武道における深い学びを実感することで、授業に集中できている様子が見られた。

柔道の授業においては、生徒17

4 武道授業を行っての生徒の意識、感想、変容等

環境をつくる。

- ・受け身の指導の徹底と、道具の安全な使用方法についての説明

けがの予防のために、安全指導を徹底する。

〈表〉 複数種目指導モデル 第1・2学年（2学級17名）

	1	2	3	4	5	6	7	8
種目	柔道						銃剣道	
学習の流れ	導入（あいさつ、礼法、本時の見通し、道具の扱い方）							
	準備運動・基本動作、受け身練習						○歴史・礼法について ○構え、直れ、送り足 ○直突について ・新聞紙に突き ・指導者に突き	
	○歴史学習 ○体さばきについて ○姿勢について		○大腰の投げ方 ○寝技 ・袈裟固め ・横四方固め		○投げ技について ・体落とし ・大内刈り ・小内刈り ・膝車			

・受け身の取り方（後ろ受け身、横受け身、前回り受け身、前受け身）について

・体さばきについての動きの練習

・ペアになり体さばきの練習（相手を軽く倒す）

(2) 3・4時間目

- ・受け身の復習
- ・体さばきの復習（支えつり込み足を含む）
- ・固め技の練習（袈裟固め）
- ・大腰の練習

(3) 5・6時間目

- ・受け身の復習
- ・膝立ちから相手を倒し固め技につなぐ練習
- ・技（大内刈り、小内刈り、体落とし、大腰、背負い投げ）の練習

※安全には十分な配慮あり（3名の指導者、投げ込みマット）

▼銃剣道

(1) 1・2時間目

- ・銃剣道の歴史
- ・銃剣道とは（DVD）観賞

・礼法について

- ・木銃の持ち方
- ・木銃をもって足を運ぶ練習
- ・突く練習
- ・グループになり新聞紙を突く練習
- ・講師の先生を突く練習

●指導の工夫・留意点

(1) 効果的に指導するための工夫

- ・少人数に対してのきめ細やかな指導環境
- 1・2年生計17名という人数に対し、指導者が数名ということもあり、苦手な生徒やさらにレベルアップを望む生徒に指導しやすい環境であることを活用し、きめ細かく指導する。
- ・映像の活用
- 導入等で映像を活用し、授業に入りやすい取組を行う（銃剣道）。
- (2) 生徒の安全を確保するための工夫
- ・複数の指導者による安全管理
- 少人数の生徒に対して複数の指導者が安全管理を行うことにより、常に危険な場面がないような

5

おわりに

今回、中学校武道複数種目実践授業の取組を通して、全体的に考えると、生徒にとって、また教員にとっても学びが多かった。普段の授業では行うことができない、より専門的な内容によって、知識や技能等をより深く学ぶことができた。関心・意欲についても、「できる」ことが増えると「楽しさ」や「充実感」を味わうことにつなが

授業の中で特に生徒の反応が大

きかったのは、外部指導者が柔道を行う上で大切にすべきことを話された時であった。礼法や道場への入り方、靴のそろえ方、相手への敬意の表し方など、武道ならではの考え方について学べたことが生徒にはとても新鮮であり、興味を持つことにつながった。

銃剣道の授業においての生徒は、最初は全くイメージがつかめ



銃剣道① 外部指導者が有効突き部位を説明



銃剣道② 立ち方の指導



銃剣道③ 外部指導者が新聞突きを解説



銃剣道④ 生徒による新聞突き

ず、不思議に思っている様子であった。授業が始まり、木銃を触ってみると生徒の表情は明るくなり、練習にも楽しそうに取り組んでいた。

授業は多くの講師の方に来てもらったおかげで、手厚い指導ができた。生徒は木銃を使って活動することを心待ちにしていたようで、前半部分の説明時間をもう少

し削りながら、後半の活動時間を増やすとっと楽しさを実感できたのではないかと考える。

後半のグループでの活動では、笑顔で楽しく行う様子が多く見られた。特に新聞紙を木銃で突いて破るという活動では生徒はとても楽しそうに行っており、銃剣道の楽しさを実感しているようであった。

ことで、スムーズに授業を行うことができた。

また、技能に関しての外部指導者からの確に指導いただき、それが生徒のめざましい技能向上につながっていた。さらに、上達してきた生徒や得意な生徒に対しては、ステップアップとなるような指導も行い、全員の意欲が低下しないよう授業が展開できた。安全

面に関しても、柔道の技の危険性や受け身の取り方等について、毎時間丁寧に確認することで、生徒の安全意識の向上につながっていた。

▼銃剣道

銃剣道については、外部指導者に多く来てもらったということもあり、少人数のグループ活動が、非常に効果的であった。初めて持つ木銃に対して、指導者から優しく温かい言葉がけをしてもらい、生徒も安心して木銃を扱うことができた。

また、礼法に関しても柔道と通ずるものがあり、生徒も確認と再認識をすることで、知識をさらに深めることができた。実際にやったことのない内容に対しては抵抗

発売中 DVD VIDEO

久場良男 剛柔流拳法 シリーズ

ここに、



剛柔流拳法 古伝の裏分解セミナー 撃砕1・撃砕2・サイファー編

商品番号：DCMP-3801
収録時間：150分
価格：4,500円（税込）



剛柔流拳法 古伝の裏分解セミナー2 セーサン編

商品番号：DCMP-3802
収録時間：179分
価格：4,500円（税込）

剛柔流伝の



剛柔流拳法 古伝の裏分解セミナー3 セーハイ・シーリン編

商品番号：DCMP-3803
収録時間：102分
価格：4,500円（税込）

全てがある。

CHAMP 商品のお問合せ・ご注文はこちらまで

TEL 03-3315-3190

受付時間 9:30~18:30 定休日 日・祝日

FAX 03-3312-8207

http://www.champ-shop.com



柔道⑤ 前受け身



柔道⑥ 膝立ちの相手を倒す



銃剣道⑤ 突きの指導



銃剣道⑥ 生徒による基本の交差での直突

感を持つことが多いが、外部指導者の方々の支えもあり、とても充実した時間を送ることができた。



柔道・銃剣道等の武道の授業に關しては、当然保健体育科の教員は指導内容や方法については理解している。しかしその経験がない場合は、的確なポイントを生徒に

示しづらいことがある。そんな時には、今回のように外部指導者と協力することで、生徒と教員の両方にとって安全面や技能面での良い効果が得られることがわかった。

また、銃剣道に關しては、安全面を十分に考慮して行えば、生徒の関心が高まりやすい内容である

ことが、今回の事業で明らかになった。しかし、授業を行うためには教員が銃剣道について理解しなければならぬことや、道具をそろえるなどの課題もあり、すぐには取り組むことができないのが現状である。

武道の授業は、学習指導要領において必修である。指導者は安全

面を特に考慮しながら、生徒が様々な学びを得られるような授業づくりを工夫する必要がある。もし現場の教員が困るようなことや不安になることがあれば、外部指導者の協力のもと授業を展開すると、より良い武道の授業ができると感じた。